



～風を感じて～ ふるさとの未来のために

佐賀県 嬉野市消防団

嬉野市は、佐賀県南西部に位置し、総面積 126.51km²、嬉野虚空蔵山系に源を發する塩田川は、市の中央部を横断し、沿岸地域の耕地の灌漑用水となって有明海へと注いでいます。また市の北東に位置する唐泉山は、とても美しい形から「肥前小富士」とも呼ばれています。

山間部・盆地・平野からなる嬉野市は、自然の恵みを受けてお茶や米麦、施設園芸などが盛んに行われ、多くの観光客で賑わう嬉野温泉は、長崎街道の宿場町として江戸時代から栄え、現在では日本三大美肌の湯として親しまれています。

嬉野市消防団女性部は、嬉野町消防団女性消防隊（H16. 4. 1 発足）と 塩田町消防団女性消防隊（H17. 4. 1 発足）が平成 18 年 1 月 1 日の 2 町合併に伴い、嬉野市消防団女性部 塩田 1 部・嬉野 2 部として新たに発足しました。現在は、2 部体制から 1 部体制に変わり、嬉野市消防団女性部として総勢 44 名で活動を



日本三大美肌の湯 嬉野温泉

行っています。

女性部組織は、嬉野市に居住又は勤務する女性で編成され、市役所職員や自営業者、福祉施設職員、民間企業勤務者など職種は様々です。女性部の半数以上が



幼年消防クラブ映写会での活動

市役所職員で、一般団員の加入が今後の大きな課題となっています。

女性部は 20 代から 60 代まで幅広い年代でそれぞれの視点から地域における火災予防思想の高揚と消防意識の向上のために、女性部だからこそできる活動を積極的に行ってきました。近年は、訓練や式典だけでなく、園児向けの防災行事に参加し、スクリーン版紙芝居を行ったり、福祉施設を訪問し火の取り扱いについて寸劇をしたり、活動の幅を広げています。

さらにそのような行事や訪問の際は、女性部手作りの小物を配布し、より記憶に残る工夫をしています。小物を作るときは、あえて活動服ではなく私服で、おやつを食べながら、話をしながら和気あ

いあいと作っています。おかげで普段の活動だけでは縮められない団員同士の距離も大きく変わりました。さらには、これまで部員の15%ほどしか持っていなかった応急手当普及員の資格を新たに14名が取得し、約半分の部員が普及員としての活動を行うようになりました。主に、地域コミュニティや地区の防災訓練などで消防署員と連携し活動を行っています。これまで目立った活動が来ていませんでしたが、これらの活動ができ充実した日々を送っています。



女性部手作りの小物

また女性部は、平成27年10月15日に横浜市消防訓練センターで開催された第22回全国女性消防操法大会に軽可搬ポンプ操法の部に出場し、総合9位に入賞し



応急手当普及員講習の様子



全国女性消防操法大会訓練

優良賞を受章しました。10月の大会に向けて5月から週1回、7月から週3回の訓練を続け、体力的精神的にも非常に厳しい中で、最後まで諦めず挑んだ結果だと思います。より一層女性部団員間の結束が強くなりました。

女性部にできる消防団活動は、主に火災やその他の災害を未然に防ぐための広報活動だと考えています。現在も嬉野・塩田両地区で毎月広報車による火災予防広報を実施しています。まさに縁の下の力もち的な存在だと思います。まだまだ女性消防団に対する認識は薄く、入団に際しては敬遠されがちですが、地域のため、家族のため、ひいては自分自身のためだということを活動を通して理解を深められたらと思います。

